

藤原京右京七条一坊西南坪の調査概要

(藤原宮第49次調査)

1986年 7月19日

奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

調査地 橿原市上飛驒町
 調査目的 橿原市営住宅建設に伴う事前調査
 調査期間 1986年6月27日～継続中
 調査面積 約1,300㎡
 既往の調査 第19次調査(1976年度)、今回調査区の北側、約2,000㎡

検出した遺構

今回の調査区は、弥生式土器を含む自然流路と、古墳時代の土器を含む包含層が基盤を形成している。検出した遺構は、藤原京の時期の遺構が主体をなすが、他に、7世紀後半の遺構と、中世の遺構とが少数みられる。ここでは、藤原京関係の遺構について紹介する。重要な遺構は、掘立柱建物4棟である。

建物01は、右京七条一坊西南坪のほぼ中心に位置する建物で、その規模と位置からこの坪内の中心的な建物、すなわち正殿と考えられる。

建物02は、正殿の北に位置し、後殿と考えられる。

建物03は、正殿の南に位置し、前殿とも考えられる。

建物04は、正殿の西に位置し、西脇殿と考えられる。

出土遺物

出土遺物はきわめて少なく、藤原京の時期の遺構に伴うものはごく少量である。この他に基盤をなす自然流路中に含まれる弥生式土器、包含層中の古墳時代の土師器、中世の瓦器・羽釜などが少量ある。

調査の成果

今回の調査では、第19次調査の成果と併せ考えると、いくつかの成果を得ることができた。以下箇条書きにして要約する。

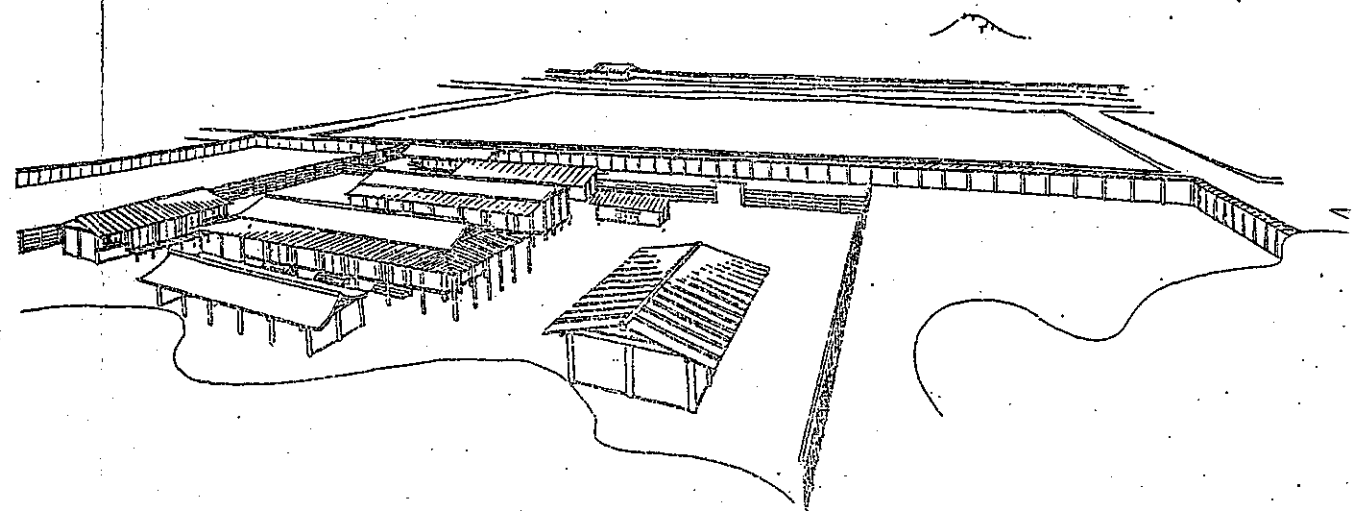
1. 一坪全体を敷地とする土地利用のあり方が明らかとなった。
2. 坪の中心に四面庇を有する大規模な正殿を配し、その後に南庇を有する南の後殿と北の後殿、南に前殿がほぼ中軸線上に4棟並び、正殿の西に脇殿と考えられる南北棟が位置する。このような整然とした建物配置が明らかとなった。

第49次調査検出遺構

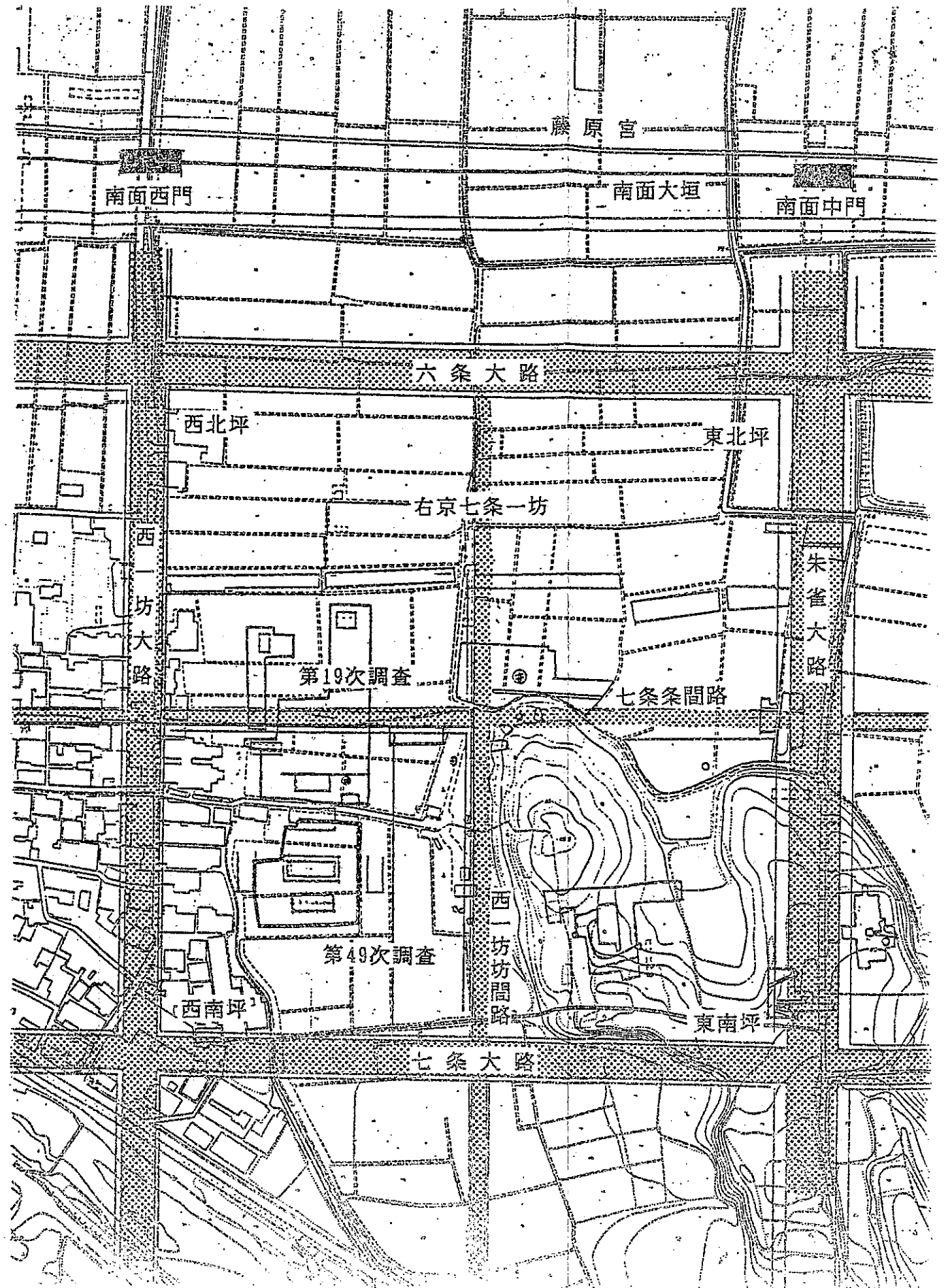
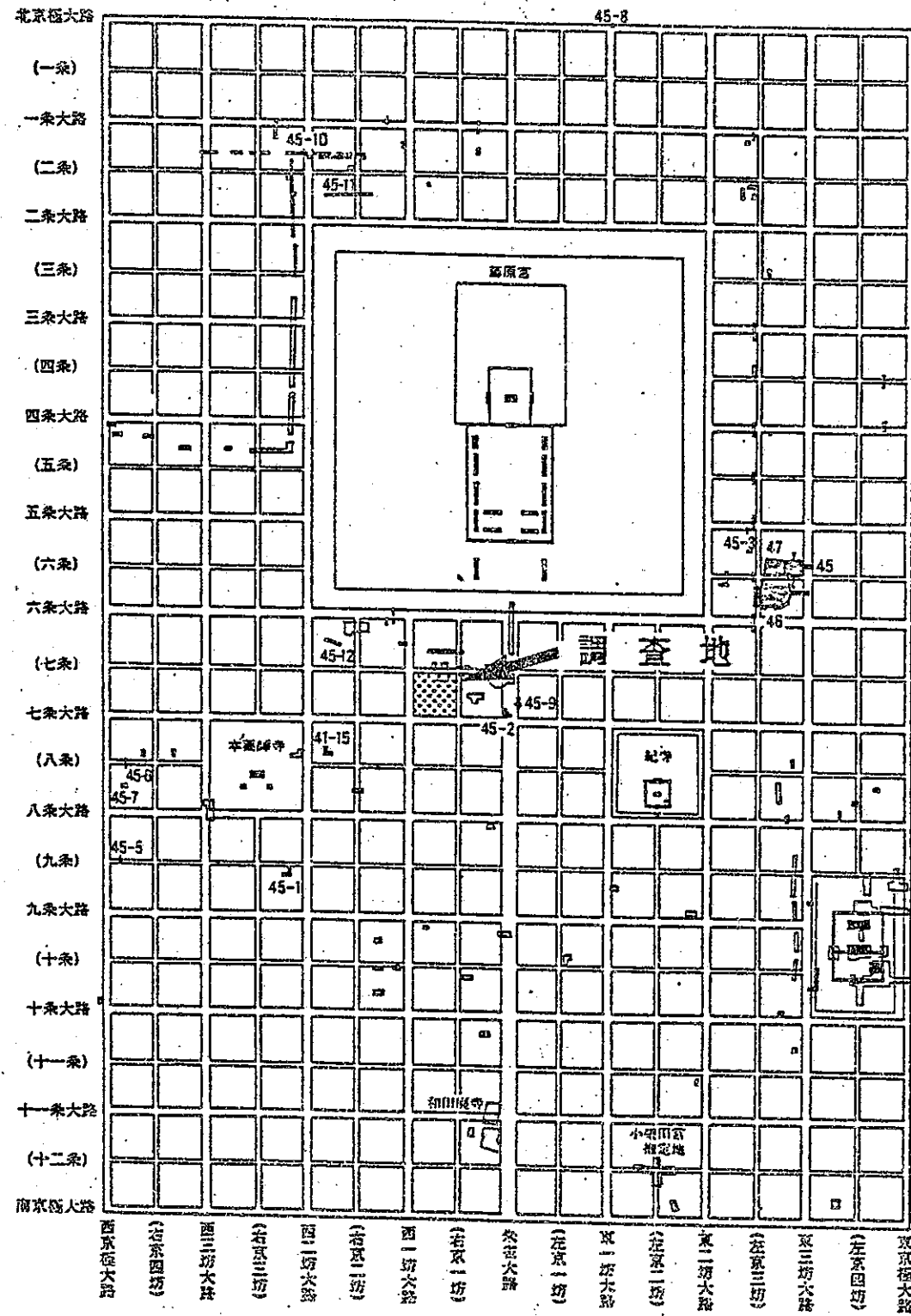
遺構	棟方向等	桁行(総長) / 柱間寸法	梁行(総長) / 柱間寸法
建物01 正殿	東西棟 四面庇付	7間(18.5m) / 2.65m 各1間 / 約3m	3間(6.2m) / 2.16m 各1間 / 約3m
建物02 南後殿	東西棟 南庇付	7間(18.5m) / 2.65m	3間(6.3m) / 2.1m 南1間 / 2.85m
建物03	東西棟 総柱	5間(14.1m) / 2.82m	2間(6.12m) / 3.06m
建物04 西脇殿	南北棟	5間(14.0m) / 2.8m	2間(5.2m) / 2.6m

第19次調査検出遺構

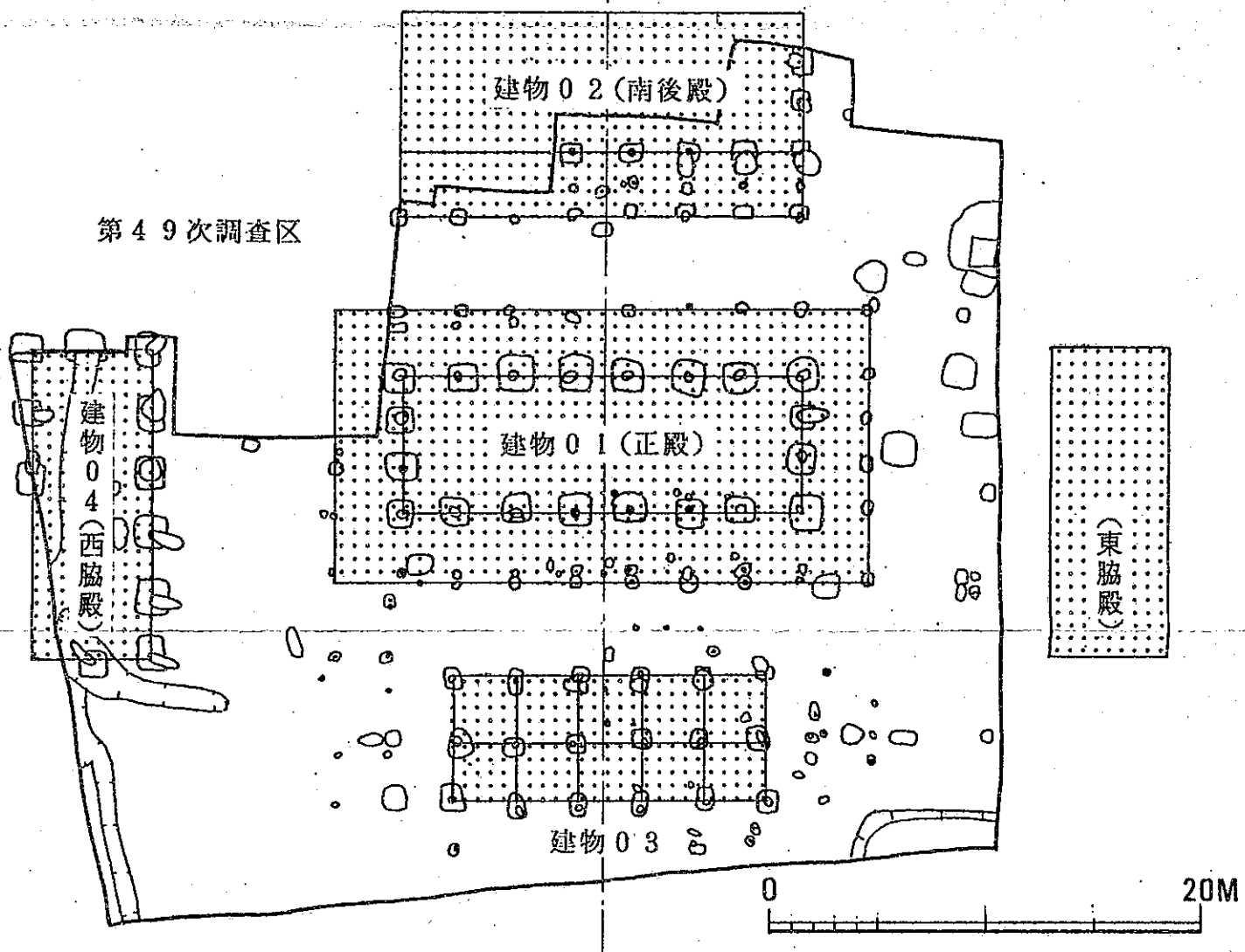
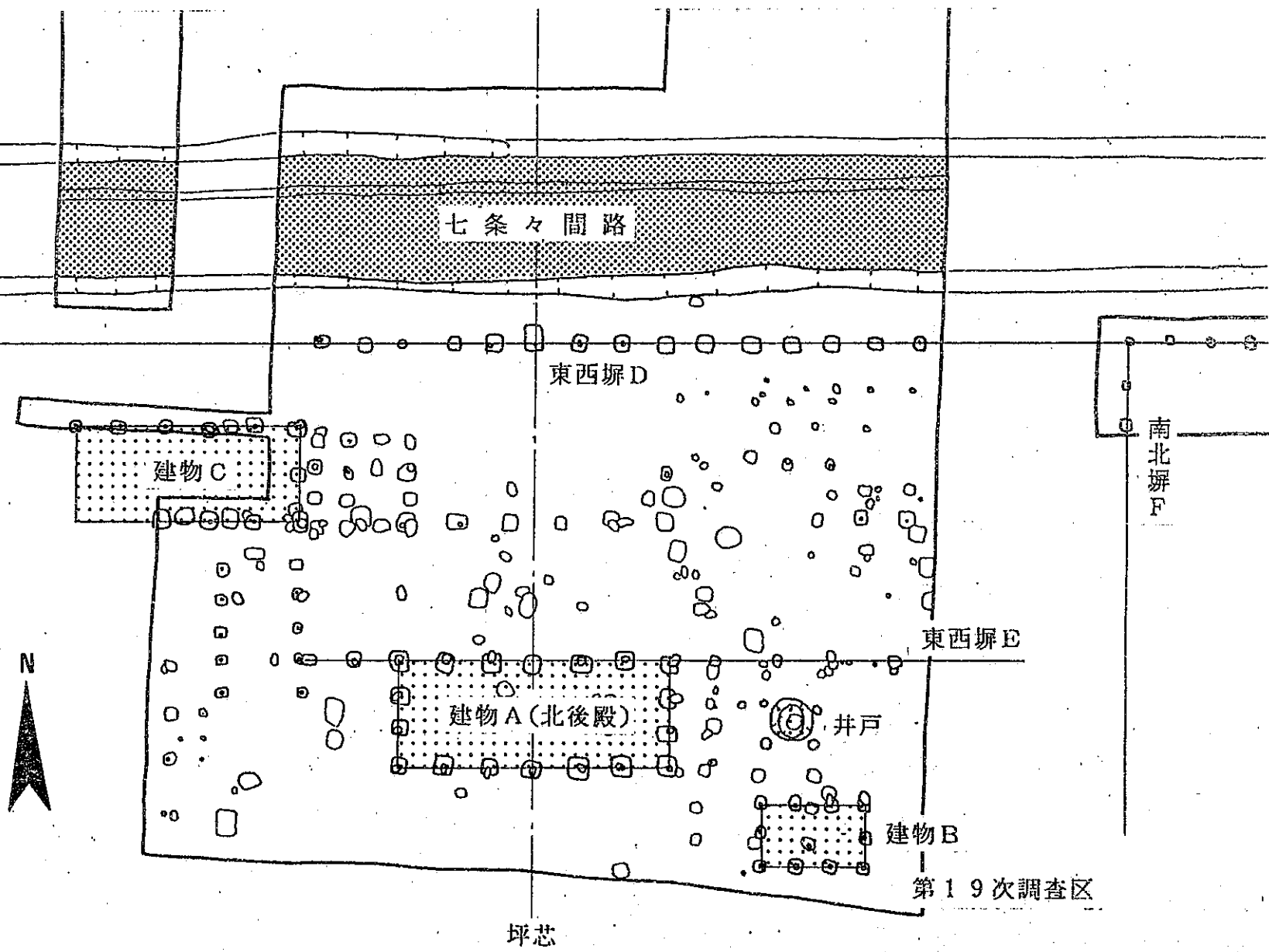
遺構	棟方向等	桁行(総長) / 柱間寸法	梁行(総長) / 柱間寸法
建物A 北後殿	東西棟	6間(14.4m) / 2.4m	3間(5.7m) / 1.9m
建物B	東西棟	3間(5.4m) / 1.8m	2間(3.3m) / 1.65m
建物C	東西棟	5間(11.6m) / 2.32m	2間(5.0m) / 2.5m
塀D	東西塀	28間(62.5m)以上 / 2.2m	七条条間路に沿う塀
塀E	東西塀	4間(9.6m)以上 / 2.4m	建物Aの東にとりつく
塀F	南北塀	2間(4.4m)以上 / 2.2m	坪の½に位置する



藤原宮・京の調査



藤原京内調査位置図 (1:17000, 糸坊は模式図)



藤原京右京七条一坊西南坪発掘調査遺構配置図